



社会的養護の社会化フォーラムを通して、松阪地域にも子どもに関わる活動をしている団体はたくさんあることがわかりました。各団体がつながり合えるように、このコーナーで紹介させていただきます！

Vol.5 まつさかプレーパークをつくる会

代表の川端明日香さんは、高校生の時、ボランティア活動で初めてプレーパークに出会いました。発祥地である世田谷の羽根木プレーパークで、屋根に上ったり、のこぎりを使ったりして遊ぶ子どもたちと、止めずに見守り、道具の使い方を教える大人たち、その自由さに衝撃を受けたそうです。結婚で松阪市に転入し、子どもが産まれたときに「プレーパークで遊ばせたい」と思いましたが、松阪にはありませんでした。「自分の責任で自由に遊ぶ」子どもが「遊び」をつくっていく、子どもたちの「やりたい！」を大切にできる、外遊びの場であるプレーパークをつくらうと、2018年に会を立ち上げました。現在、鈴の森公園で月1回程度プレーパークを開催し、ブルーシートを広げ、遊びのきっかけになる道具を用意し、段ボール遊びや落ち葉拾いなどの子どもたちの外遊びを見守っています。外遊びのきっかけや、ママ同士が話せる場にもなっているようです。今後は多くの人にプレーパークを知ってもらい、仲間を増やしたい、いつか常設のプレーパークができる場所を確保して子どもたちがいつでも来られるようにできれば、と素敵な笑顔で話してくれました。



お知らせ

ゆきあそびツアー

毎年恒例のゆきあそびツアーを今年も行います。家族や友達と思いっきり遊んでみませんか？

日時 2020年2月1日(土)
行き先 奥伊吹スキー場
参加費 小学生以上 9500円
3才以上未就学児 5000円
2才以下 300円

●チャイルドラインMIE

(きいてほしいな...)

子どもの心を受け止める

18歳までの子ども専用電話

0120-99-7777

毎週 月曜日～日曜日

午後4:00～午後9:00

●こどもほっとダイヤル

(助けて！も言える)

子どもだけが相談できる

18歳未満の子どものための相談電話

0800-200-2555

毎日 午後1:00～午後9:00

(12月29日～1月3日はお休み)



●この会に賛同し、会を支えてくださる個人・団体の方を募集しています●

個人正会員・参加会員：年8,400円 賛助団体会員：年10,000円 支援会員：年10,000円

※入会金：300円

会員数 正会員：21名 参加会員：3名 支援会員：92名 賛助団体会員：26団体 (11月末日現在)

特定非営利活動法人 松阪子どもNPOセンター

〒515-0084 松阪市日野町788 カリヨンプラザ1F (開所日・時間 月～金10:00～17:00)

TEL 0598-20-8344 FAX 0598-20-8345 ホームページ <http://www.mknpo.jp/> eメール info@mknpo.jp

【賛助団体会員】(敬称略)

・医療法人 イワサ小児科	・医療法人 河合産婦人科	・鎮守の森を夢見る会・その二	・株式会社 富士土地
・うれしの 太田クリニック	・医療法人 桜木記念病院	・東海印刷株式会社	・松阪市健康体操連絡協議会
・株式会社 SK スズキ	・株式会社 阪本事務機	・東海シール株式会社	・まんのう整形外科
・大久保クリニック	・ささおこどもクリニック	・飛岡雅子	・医療法人 南産婦人科
・おたかクリニック	・株式会社 ジェントリー	・ナガフジ産業有限会社	・医療法人社団 鷺尾小児科
・岡田パッケージ株式会社	・上瀬クリニック	・はせがわこどもクリニック	・他一団体
	・医療法人 地主矯正歯科クリニック	・健康体操 ひまわり会	



子どもたちがのびやかで豊かな「子ども時代」を過ごすために

Winter NO.206

2019年12月1日

発行元：特定非営利活動法人
松阪子どもNPOセンター

里親シンポジウム「子どもにとっての家族とは」 ～里親家庭・養子縁組家庭・ファミリーホームと社会的養育～

日時 2019年10月27日(日) 13:00～16:00

会場 三重県人権センター 多目的ホール

参加人数 25名/323名(松阪地域)



第1部 白井千晶さんと江連麻紀さんとのトークセッションでは、お二人がされている写真展「フォスター」(里親家庭・ファミリーホーム・養子縁組家庭を追った写真展)から、それぞれの家庭をとおして感じた親子の関係、家庭と地域の人々との関係について話され、お二人の家族を見守る温かいまなざしを感じました。

第2部 パネルディスカッションでは、若い養育者が登壇されていて、それぞれの立場から養育している子どもとの関わりについて話され、子どもへの熱い思いを感じました。「自分も子どもたちにできることはないだろうか」という思いは、私たちの様々な事業で関わっているサポーターやボランティアからも感じます。形は違いますが、子どもと関わることで、それぞれが子どもにとっての一つの環境になっています。子どもが豊かに育つために、地域の中で子どもを見守り関わる人を、さらに増やしていきたいと思います。また、里親普及啓発事業を始めて7年目になりますが、松阪地域で関わってくださった中で4組のご夫婦が里親に登録されたことで少しずつ広がりを感じています。



お知らせ

チャイルドラインチャリティ映画会 「いただきます みそをつくるこどもたち」

日時 2020年3月7日(土) ①10:00～11:15 ②14:00～15:15

会場 農業屋コミュニティ文化センター

参加費 大人 1200円 小学生～18歳 700円



9回目を迎えるチャイルドラインチャリティ映画会、今年度は福岡市高取保育園での日常を追ったドキュメンタリー映画「いただきます みそをつくるこどもたち」です。高取保育園はドラマや映画化もされた「はなちゃんのみそ汁」のはなちゃんが通っていた保育園です。素足で駆け回り竹馬で遊び、真冬でも風邪をひかない元気いっぱいの子どもの姿が映し出されています。体験を積み重ねることで「生きる力」を子どもたちはつけていきます。私達大人はその力を信じて寄り添っていきたく思います。

当日は、子ども支援をしている団体のブースもあります。ぜひたくさんの方々に観ていただきたいと思っております。

子どもと遊び

子どもにとって遊びとは…

私たちは4年前より、街を使って子どもと大人と一緒に、街の人たちと関わりながら「まちをあそぶ」を行ってきました。その中で、遊びは子どもそのものであること…10人いれば10通り、同じことをしていてもそれぞれに意味があるのだということを実感しました。子どもがその時“やりたい”ことをしていく、楽しいから繰り返す、ちょっと変化させてみる、そうやってどんどんイメージは広がっていきます。そこで五感を使って夢中になって遊んだ豊かな経験は、達成感となり、“もっとやりたい、やってみよう”という気持ちが「意欲」として、子どもの中に湧き上がります。そのことが、子ども自らが主体者として、自分で考え、選択し、決定し、やってみる、それが成功しても失敗しても大切な経験として積み上がっていき、子どもの血肉になっていくと考えます。



きもちいいね～!



つれるかな～?

キャンプへGO

日時 8月20日(火)～21日(水)
 会場 つつじの里荒滝キャンプ場
 参加者 小学4年～6年 20名 スタッフ5名 高校生スタッフ3名
 講師 太田覚さん(特定非営利活動法人 i sierra 理事長)



ピザがやけたよ!



夏休み自然キャンプ体験をしました。事前の子ども会議では、学校も学年も違う子どもたちがグループに分かれ、班名を考えたり、おこずかい、ルール、何をして遊ぶか等を決めたりしました。当日子どもたちはバスに乗った途端「わぁ～自由だ!」と声をあげたのでびっくりしましたが、話を聞くと夏休みに塾や習い事に追われて忙しく過ごしているのがわかりました。キャンプ場に到着してから、川遊びをしたり UNO をする子がいたり、それぞれが自由に遊んでいました。

マッチをすったこともない子どももいるので、太田さんからマッチでの火の起こし方を教えてもらいました。火が起こってくるにはどうしたらいいのかをみんなで話し合い「枯れ葉を入れてみたら?」「高く小枝をつみあげたらどうだろう?」色々試していくのですがどんどん辺りは暗くなり、夕食はいつ食べられるのか心配になったころ、ようやく火がおきました。子どもの力を信じて任せて待つ事が大人にとってどんなに大変かわかる火おこしでした。

今回のキャンプでは高校生3人がボランティアスタッフとして参加しました。グループに1人ずつ入り、川遊びをしたりして子どもの様子をしっかりとみてくれました。子どもたちは3人にまとわりついたり、抱きついたり一緒にいる様子は本当に楽しそうでした。また、地域の方がピザ窯を持ってきてくださり、自分たちで作ったピザを食べたり、釣った魚を大きな口を開けて美味しく食べてました。焚き火のそばで炎をずっとながめている子どももいました。

振り返りの子ども会議で一番楽しかった事を聞くと「UNO 最高」「寝る前にした枕投げ」「もっと寝る前に話したかった」という声が聞かれました。子どもたちは束の間の自由な時間の中で、それぞれが自分の楽しい事を探し遊んでいました。私たちはこの時間や空間を保障していきたいと思っています。



マッチをつかって火を起こすよ!



マッチをするのはむずかしいな～!

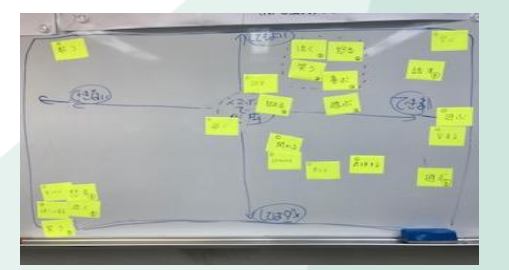


なかなか火がつかん～。



「子どもにとってのネット・ゲームのホントの問題」

日時 9月1日(日) 14:00～16:30
 会場 ワークセンター松阪 勤労青少年ホーム2階
 講師 北崎圭太さん(NPO 法人アフタフ・バーバン関西事務所代表)
 参加者 まつさかファミリーサポートセンター会員 11名
 一般参加者 15名 合計 26名



講習会では、子どもがスマホやインターネットを使うことで起こる様々な問題や、使い方ではなく、「今を生きる自分の周りの子ども」「子どもにとって大事なこと」って何だろう?ということが内容でした。

子どもたちは、生まれた時からすでに、スマホやネット、ゲームが身近にあります。インスタ映えるような非日常的な写真を撮って、インスタにアップした自分をリアルと捉えている子どもや、周りと比較しモテたい、認められたいという心の問題を抱えている子どもが多いようです。

ワークショップの中で、子どもにとって大切な一般動詞を考えました。「遊ぶ」「話す」「考える」「学ぶ」「関わる」…たくさんの動詞があげられました。次にその動詞をスマホで代用できるかを考えました。スマホですでに代用している姿があります。私たちは、それだけではなく五感を使い、体を動かし、様々なことを体験できる現場をつくっていきたいと思います。

高校生スタッフとの事前・事後会議より



キャンプをするにあたって事前・事後のスタッフ会議をしました。事前は子どもたちの安全の確保と子どもの主体性を大切にすることを話し合いました。事後では、「子どもたちはパワーがあって、次の日朝早く起きて鬼ごっこを一緒にしました」「マッチをすった事がないのに驚きました」「自分もキャンプが初体験だったので楽しかったです」という声がありました。キャンプを通して、子どもたちには力があるということを実感しました。